

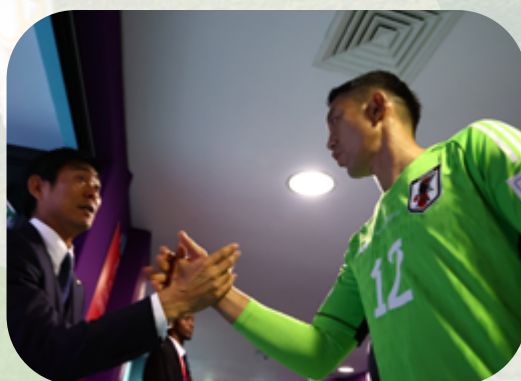
RESPECT

大切に思うこと



クラブウェルフェアオフィサー ハンドブック

～ 安心・安全な環境をみんなで作るために～



公益財団法人日本サッカー協会

JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、
人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、
人々が幸せになれる環境を作り上げる。
サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、
人々に勇気と希望と感動を与える。
常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、
さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAのバリュー

エンジョイ	スポーツの楽しさと喜びを原点とすること
プレーヤーズファースト	選手にとっての最善を考えること
フェア	オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと
チャレンジ	成長への高い志と情熱で挑戦を続けること
リスペクト	関わりのあるすべてを大切に思うこと



はじめに

自分を成長させてくれた大好きなサッカーだから、誰にも嫌いになってほしくない。サッカー・スポーツは本来楽しく、また自発的に行うものです。

日本サッカーは、リスペクトにあふれていると、世界から評価され、一目置かれている面があります。しかし、暴力・暴言のない安心・安全なスポーツ環境といった面では、まだまだ誇れる状態にあるとは言えません。

スポーツ現場での暴力・暴言、あらゆるハラスメントの根絶は、世界中のスポーツ界で取り上げられているトピックです。サッカー界でも、国際サッカー連盟（FIFA）や各大陸サッカー連盟がリーダーシップをとって推進しています。

その中で、繰り返し言われていることは、「セーフガーディングは関わる全員の役割」ということです。

日本サッカー協会（JFA）では、暴力・暴言の根絶に取り組む上で、「しない、させない、許さない」というスローガンを掲げてきました。

それらが皆さんの日常になることが大事です。だからこそ、クラブとともに進めることが大事です。

指導者への働き掛けも重要です。それらは、指導者養成の中でさらに追求していきます。

適切なケース対応に関しても重要な要素になります。適切な対応、そのための体制づくり、情報共有を重ねていきます。

しかし、こうしたケースは一度起きてしまうと、丁寧にひも解いていっても、なかなかきれいに元の状態には戻りにくいものであり、対応には多大なエネルギーが必要とされます。だからこそ、起こさないこと、日常での予防が何よりも重要であると考えています。

暴力・暴言の根絶、安心・安全な環境をつくり、それを守っていくことは、みんなの役割であり、チーム戦です。一緒に取り組む仲間になりましょう！

目次 CONTENTS

- 01 はじめに
- 03 サッカーにおける安心・安全を
自分たちの手で守る
- 04 リスペクト・フェアプレー
- 05 暴力・暴言根絶への取り組み
- 06 ウェルフェアオフィサーとは
- 08 クラブウェルフェアオフィサーとは
- 09 クラブウェルフェアオフィサーの
皆さんにお願いしたいこと
- 16 暴力・暴言等(パワーハラスメント)とは
- 18 各種ステートメント・宣言
- 20 サッカーファミリー安全保護宣言
- 21 インフォメーション

1

サッカーにおける安心・安全を 自分たちの手で守る

子どもたちの安心・安全を

リスペクト・フェアプレーは、日本サッカーの大切にしている、世界に誇れる価値観です。しかし一方で、日本のサッカー界、スポーツ界の大きな課題だとも認識されており、大きな事件としてニュースになることもあります。そうしたニュースに触れ、それが特別な稀な事象であり、そのような課題は日常には存在しないと思っている人は、あまりいないのではないのでしょうか。

- 勝利至上主義
- 閉鎖的な現場の環境
- 明確な上下関係に基づく立場
- 人物の厳密な照会システムなし、ライセンス保持の義務化もまだない
- 気になっても声を掛けにくい社会
- 相談、告発のしにくさ、難しさ
- 負の連鎖、経験の再生産
- 傍観、直接関わらないとピンと来ない
- 加害者の人権を擁護する傾向
- その他



これらの事象が、日常の現場ではよく起きているかと思えます。言いにくい、関わりにくい、しかし一度何かが起こると「やっぱりね、そう思っていたんだよ」という声が聞こえてくることが多いように思えます。また、自分の身近で起こるまでは、何となく自分とは縁遠いものと感じがちなのも確かだと思います。しかし、大きささまざまなことが日頃から起こっており、それが起こると本当に大変な問題です。

子どもたちの人権が第一です。もっと徹底して取り組んでいかなければ変化は起こせません。本当に悪質なものもあるでしょうし、日常の中で繰り返すうちにエスカレートしてしまうこともあるでしょう。情熱を持って、良かれと信じて取り組んでいるうちに、度を越えてしまい、周囲に不幸を生んでしまうのは非常に残念なことです。悪意を持ったものはともかく、芽のうちにこうしたケースに気付き、解決していく術を持ちたいものです。そして、日常で気になることがあれば、早期に声を掛けて対応していく文化をつくりたいものです。

サッカーはアウトドアが基本になり、比較的オープンな現場であると言えますが、死角も存在し、見えていても外部から声を掛けにくいといった精神的な部分もあります。それにより、そうしたケースがSNSに投稿されてしまい……ということも起こるようになりました。

みんなが当事者であり、巻き込んでいくことが必要ですし、理解することが必要です。多様な視点を入れていき、空気感を変えていくこと。情熱を持って取り組んでいる人たちが、適切な関わりができるようにすべきです。誠実に、真摯に取り組んでいる人たちが気詰まりになることなく、安心して指導やサポート、活動ができるように。またサッカーを楽しむことができるように。チーム戦で、啓発や予防に取り組み、オープンな文化をつくっていきましょう。

2 リスペクト・フェアプレー

世界から注目されるリスペクト・フェアプレー

FIFA ワールドカップカタール2022での SAMURAI BLUE（日本代表）、FIFA 女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023でのなでしこジャパン（日本女子代表）とそのファン・サポーターは、サッカーの勝敗だけでなく、その振る舞いでもさまざまな面で話題となりました。監督や選手の礼儀正しい振る舞い、ロッカールームの清掃、ファン・サポーターの試合後のスタンドの清掃など、チームの活躍と相まって、世界から注目されたのは記憶に新しいと思います。

日本サッカーにおけるリスペクト・フェアプレーには長い歴史があり、日本サッカーミュージアム（※2023年2月26日に休館）には、たくさんのフェアプレー賞のトロフィーが展示されていました。1968年の第19回オリンピック競技大会（1968/メキシコ）をはじめとして、各カテゴリー日本代表が国際大会で獲得し続けたトロフィーです。アジアで勝ち上がれずに世界大会へ出場できなかった時期から、日本はフェアプレー賞を獲得してきました。勝てないことから「フェアプレーコレクター」と揶揄されたこともあったそうですが、その姿勢を変えずにやってきました。

そして、FIFA 女子ワールドカップドイツ2011でな

でしこジャパンが優勝を果たし、このときにフェアプレー賞も受賞しました。「フェアに戦うこと」と「勝つこと」はトレードオフの関係ではなく両立できるもの、フェアで強い日本サッカーを目指していけるのだということが示されました。決して、激しく戦わないということではありません。その後、2014年に U-17日本女子代表、2018年に U-20日本女子代表がそれぞれ FIFA U-20/U-17女子ワールドカップを制覇しましたが、そこでもフェアプレー賞も獲得しています。FIFA U-20女子ワールドカップコスタリカ2022での U-20日本女子代表は準優勝だったものの、選手たちの笑顔と、サッカー自体や周囲に向かう姿勢が共感を呼び、大会が進むにつれて応援してくれる人が増えていく様子が印象的でした。



全国の皆さんと分かち合うべきもの

世界で評価され、注目されるのは代表チームの戦いを通してとなりますが、これは代表チームが約束事として実施していることではありません。選手たちがサッカーを始めた子どもの頃から、それぞれのクラブで、あるいは家庭で、そのように伝えられ、導かれてきたからこそ、自然にそれが身に付いているのです。こうした場で自然にそれが現れ、世界から見たときに際立った特長として映るのだと思います。ですから、これらのフェアプレー賞、リスペクトの評価は、全国の関係者の皆さんと分か

ち合うべきものと捉えています。

リスペクト『大切に思うこと』——。日本サッカーは2009年からリスペクトプロジェクトを立ち上げ、JFA リスペクト・フェアプレー委員会としてさまざまな活動に取り組んでいます。「日本では不要なのでは」などと言われることもありますが、私たちとしては、日本サッカーが大切にしていけるべきポジティブな価値観として、しっかりと共有して推進していくべきものと捉えています。

3

暴力・暴言根絶への取り組み

取り組みのスタート

JFAとしては、以前より指導者の役割、行動規範といったものを示してきました。しかし、2013年の高校部活動での事案、その後、柔道女子日本代表での事案があり、JFA、日本オリンピック委員会（JOC）、日本パラリンピック委員会、全国高等学校体育連盟（高体連）、日本中学校体育連盟（中体連）が共同で声明を出す事態となったタイミングで、JFAとしてもあらためて暴力・

暴言の根絶に取り組むこととしました。

暴力等根絶相談窓口を開設するとともに、当初は主に指導者のあり方に重点を置き、指導者養成の中での扱いの強化を軸としてきましたが、取り組みを進めていく中で、それだけでは変化を起こしていくことは難しいと考えるに至りました。

虐待、暴力・暴言の根絶の基本方針

サッカー界における

JFAが暴力・暴言根絶の取り組みを開始した当初、指導者から選手への暴力を想定し、「指導現場における暴力の根絶」を主題としていました。しかしその後、選手同士の暴力も問題となり、またあらゆる場面で起こり得ることから、「指導現場」という限定を外して「サッカー界における」とし、また暴力・暴言の根絶に限らず、広く安心・安全な環境について取り組むこととしました。

“ し ない ”

指導者、選手をはじめとして、サッカーに関わる一人一人、自分自身が暴力や不適切な行為をしないこと。指導者養成の哲学の確認、指導力向上のための学びを通して、指導力を備えた指導者を指導現場に十分に行き渡らせること、またそのためのサポートなどが含まれます。

“ さ せない ”

自分自身がしないだけでなく、人にさせないこと。自分の周囲で不適切な事象が起こったとき、起こりそうなときに、それに気付き、抑止すること。相談や告発をできるようにすること、互いに気付きを伝えられる雰囲気や環境を整えることなどが含まれます。

“ 許 さ ない ”

関わる全員の意識を高め、雰囲気を変え、文化にしておくこと。関わる全ての人々の意識が高くない限り、暴力・暴言などの根絶は困難です。みんなが当事者意識を持ち、互いの自浄作用を働かせ、許さない・容認しない文化をつくり、守っていくことが重要です。自身の経験を含む不適切な連鎖を断ち切ること。みんなが認識を高め、望ましいこと、良い行為を示し、それを主体的に選んでいけるためのサポートもそれに含まれます。

起こさないことを目指して

虐待に関する疑惑や相談は全て真摯に受け止め、素早く適切に対応する必要があります。実際に起こってしまった事例には、誠心誠意、丁寧に対応していきます。また、再発防止に努めます。

一方で、起こってしまったことの傷については、完全に癒え、望ましい解決に至ることが難しいことが多いのも事実です。早期に芽に気付き、それを摘むこと、加えて未然に防ぎ、問題を起こさないことが非常に重要です。従って、教育・啓発、プロモーションに大きな力を注ぐ

必要があります。その対象は、指導者だけではなく、選手自身、保護者、運営者など、さまざまな方に及びます。こうした取り組みや働き掛けが全く必要のない社会を目指しつつ、集団で勝利を追い求めて競い合うスポーツの世界において、さまざまな対立が恒常的にゼロになるわけではないことも理解しつつ、その際に早期に気付き、軽微なうちに気付きを与え、歯止めをかける環境であり続けることが重要だと考えます。

4 ウェルフェアオフィサーとは

安心・安全、幸福な状態

暴力・暴言の根絶をさらに進めるために、2015年から「ウェルフェアオフィサー(WO)制度」を開始しました。「ウェルフェア」とは、安心・安全、幸福な状態のことです。耳慣れない言葉だと思いますが、制度を開始するにあたりちょうど良い訳語が見つからず、この考え方を伝えることを含めて、そのまま使うことにしました。安心・安全よりも、もう少し広い意味をイメージできればと考えています。

WOには、ウェルフェアオフィサージェネラル(WOG)、マッチウェルフェアオフィサー(MWO)、クラブウェルフェアオフィサー(CWO)の3種類があります。それぞれの場における安心・安全を守る担当者として、問題が起こってしまった場合に対応するよりも、むしろ問題を起ささないための啓発・予防について、皆さんと共に力強いネットワークで、チームとなって進めていきたいと考えています。

ウェルフェアオフィサージェネラル(WOG)

WOGは、各地域・都道府県サッカー協会(FA)、リーグ、連盟など、組織に配置されるWOです。啓発・予防を重視していくという目標の下、組織内の体制を整え、計画を立てていくことを推奨しています。あらゆるレベル・年齢のサッカー現場の日常に、安心・安全を行き渡らせていくために、種別や地区によって最適な配置を検討していく必要があります。

2022年からは、チーフの配置をお願いしています。チーフ会議を毎年実施し、進捗や情報、好事例の共有をさせていただきます。また、新規のWOG養成講習会はJFAで行います。任期は3年で、更新講習はJFAでも

行いますが、各組織でも実施していただける形になっています。組織のWOグループでミーティングの場を持ち、目標や計画について話し合ってもらいたいことを推奨しています。

特にリーグ、連盟の場合はそれぞれの特性があると思います。JFAにて基本的な情報や最低限やっていただきたいことは提示しますが、組織で目指す目標やスタンダードを設定していただければと思います。各クラブが所属するFAとも連携を図り、取り組みを進める場面もあるかと思っています。



4 ウェルフェアオフィサーとは

マッチウェルフェアオフィサー（MWO）

MWO は、試合や大会での安心・安全を守る担当者です。JFA では各種全国大会にて設置していますが、できるだけ多くの場で配置していただきたいと考えています。大会前などに、WO グループが研修を実施することも推奨しています。

基本的な考え方として、決して何かを取り締まる役割ではありません。仲間として、共感の気持ちを持って実施するものです。大会中や試合中の安心・安全に関して気になる事項があれば、その気付きをチームに伝え、改善を促します。指導者だけでなく、ゲームに関わるあらゆる人や環境が対象となります。マッチコミッショナーやレフェリーアセッサーが配置されている試合では、その方々と連携して実施していきます。

MWO として、試合前には両チームの監督にあいさつをし、試合を見ることを告げます。可能であれば、本部テントでの観戦や第4の審判員と同席するなど、試合全体やベンチの雰囲気を感じ取れる位置が望ましいでしょう。

大切なことは、ポジティブな面も含めてその気付きを伝えることです。ピッチ上で安心・安全が保たれているか、選手が主体的にサッカーを楽しめているか、見てもプレーしていても気持ちの良いサッカーが行われているか。一挙手一投足、一言一句をチェックするのは

なく、ファーストリアクションはあったとしても、執拗に異議を主張したり、繰り返したりすることなどがあるかを見ていきます。基本的に試合中に対応するのではなく、試合後に気付きを伝えます。重大な事象があった場合には大会運営者と共有し、対応を検討していきます。

なお、トーナメント戦の場合はノックアウト方式で行われるため、負けたら終わりのケースが大半です。場合によっては、そのシーズンの終了のような大きな機会となるケースもあります。そうした中で気付きを伝えても、次につながりにくい場合があります。

そういう意味では、リーグ戦での実施がより有効であると考えます。全ての試合での配置や管理が難しいといった課題はあるかもしれませんが、MWO は試合結果に関わることはないため、必ずしも全試合に配置する必要はありませんし、チーム関係者が実施しても問題ありません。

ホームチームのCWOが見て、気になることがあれば相手チームのCWOに伝える、あるいは両チームのCWOと一緒に試合を見るといった方法も考えられます。地区リーグなどの単位で、常に顔を合わせる仲間同士で、そのリーグの安心・安全を共に守っていくことが理想です。



5 クラブウェルフェアオフィサーとは

しない、させない、許さない

クラブウェルフェアオフィサー(CWO)は、その名の通り、各クラブに配置されるWOのことです。私たちが掲げる取り組みをより深めていくためには、全国の各クラブの日常に働き掛けていく必要があります。そしてこれは、関わる全員の役割であるということを皆さんに伝えて、巻き込むこと。ネガティブな気持ちになりがちなこのトピックに対して、ぜひ前向きに当事者意識を持って取り組んでいただきたいと思います。

何よりも起こってしまった問題を解決しようと思っても、なかなかシンプルかつフラットに、その真実を確認し、対応していくことはできません。物理的にも精神的にも非常に負担の大きなプロセスとなり、思うような解決に至りにくいこともあります。だからこそ予防、つまり起こさないことが何よりも重要であり、啓発をしてその意識を高めること、関わる皆さんを巻き込むことが重要となります。

「しない、させない、許さない」、そのためには、身近な人が日々の活動の中で、仲間として気付きを伝えることが非常に重要です。社会においては簡単でなくても、

サッカーの現場では、仲間として気になっていることを互いに伝えたいものです。そして、オープンに感謝を持って聞けるようになりたいものです。

そのためのキーパーソンが、CWOです。日本全国全てのクラブに配置していきたいと考えています。もちろんCWOは一人でなくてもOKです。クラブの規模や構成などにより判断していただければと思います。CWOはこの取り組みのリーダーであり、その人だけが取り組むものではありません。クラブはこうした取り組みがあることを認識し、CWOのリードの下、全体で取り組む必要があります。

また、JFAや各FAからの情報を受け止め、クラブ内で共有していきます。取り締まる係ではなく、皆さんと共に取り組むことが前提です。安心・安全な環境の構築はCWOだけの仕事ではありません。チームを取り巻く全員を巻き込むリーダーです。クラブの日常の中で、オフ・ザ・ピッチでも問題に気付き、声を掛け、全員がチームとなって、サッカー・スポーツ現場およびその周辺のウェルフェアを守りましょう。



6 クラブウェルフェアオフィサーの 皆さんにお願いしたいこと

1. クラブのみんなに伝えること

サッカー・スポーツを安心・安全に楽しむことは誰にとっても権利であり、何歳、どのレベルであっても本質的に重要なことです。本来すばらしい経験であるはずのスポーツが、時に暴力・暴言やその他のハラスメント、虐待などによって損なわれてしまうことは、絶対に防ぎたいことです。そのために、世界のサッカー界全体で取り組んでおり、日本のサッカー界でも同様に取り組んでいます。そして、それは関わる全員の役割です。誰もが受け身でなく、サッカー・スポーツでの安心・安全、幸福な状態を守るための役割を担っているのです。

日本サッカーに関わる全国の日常で、このことが浸透してみんなが関わっていくことが重要であるため、全てのクラブにその役割を担う人を設置しています。それがCWOです。CWOは、取り締まる役割ではありません。安心・安全に関わることを一人で担当するわけでもありません。先述の通り、サッカーに関わる全員の役割です。全員が関わらないと、防いでいけません。ですからCWOは、クラブに関わる皆さん全員のリーダーとして、皆さんと一緒に取り組むということを理解してください。

JFAでは、「しない」「させない」「許さない」という3つの柱を掲げています。「しない」とは自分がしないこと。「させない」とは周囲の人にさせないこと、しそうな人に気付きを伝えること。「許さない」とは容認しない文化をつくること。こうしてはじめて減らすことができる、防ぐことができると考えます。そのためにも、全員の関わりが大事なのです。

JFAに相談窓口があるということも、クラブの皆さんに伝えてください。JFA セーフガーディングポリシーのポスターを、みんなが見えるところに掲示するなど方法の一つです。ただし、告発に至る前に、早期に小さな芽のうちに、軽いうちに、気付きを伝え合って解決していけることもきっとあるでしょう。それを増やしていくことが非常に重要です。相手はもしかしたら気付いていないかもしれません。我慢しきれなくなる前に、CWOやその他の信頼できる人に相談できるような環境にしていきましょう。みんなの協力が必要です。そのことを、はじめに伝えてください。



6 クラブウェルフェアオフィサーの 皆さんにお願いしたいこと

2. クラブのフィロソフィー・行動規範の設定

第一にしていきたいことは、クラブのフィロソフィー・行動規範を設定して明文化し、メンバーと確認し合うことです。

多くの問題は、互いの「こうであるはず、こうあるべき」という期待にずれがあることで生じています。前提を確認してそのずれをなくすこと、そして互いの約束をすること。安心・安全を守るのはみんなの役割であるから、一方的に片方が守るのではなく、互いがそれぞれ約束をすること。そして、もし何か問題が起こった場合に、この互いの約束に基づいて確認をしましょう。

クラブとして、一番大切にすること、基本方針、共通理解にしたいことを言葉にして、関わる全員と共有してください。みんなが同じように思っているはずと思っても、時間が経ち、スタッフを含めて人が入れ替わることで、それがずれたり、薄れたりすることがあります。あるいは、もともとのイメージが異なっているかもしれません。このクラブとして何よりもこういったことを大

事にしたい、守ってほしい、ルールとしたいといったことを、できるだけ具体的に書きましょう。抽象的だと認識がずれる可能性が高くなります。

こういったことは、外向きではなく、中に向けて実施することこそ大事です。ホームページなどに掲げておくことだけでなく、クラブの中で常に確認することが大事です。

クラブとしての思いが、メンバーにしっかりと受け入れられているのかも確認します。決める際には、選手の声も聞く、選手にも参加してもらうのも良いでしょう。大事にしたいことを、メンバーに受け入れられるように説明し、互いの了解・約束をしましょう。クラブを選ぶ際の材料にしてもらいましょう。この基本方針に賛同し、了解して選んでもらいましょう。賛同し、約束できるクラブに入りましょう。賛同し、約束したら互いに守りましょう。

● 行動規範：互いの約束

選手、指導者・スタッフ、保護者それぞれに分けて作成することをお勧めします。自分たちの言葉で明記してください。基本方針と同様に、できるだけ具体的に書くことで、食い違いを防ぐことができます。クラブが描く望ましい行動、同じチームの仲間にしてほしい行動、あるいはしてほしくない行動を記します。

罰則で抑止力にすることよりも、本来はそうすべきだからするというポジティブな発想でやっていきたいものですが、万が一破ってしまった場合にはどうするかを、あらかじめ決めて記入しておくのも良いでしょう。お互いの期待や思いが食い違う可能性のあるところです。事例があるたびにみんなで話し合っ、追加・修正していくのも良いでしょう。

また、互いの約束としてサインしましょう。各自、しっかり読んで確認した上で、日付と名前を書きましょう。

クラブのフィロソフィー、大事にすること＋行動規範は、一度しっかりと決めましょう。この作業は、大変かもしれませんが、とても大事です。次年度以降は、シーズン初めに毎年確認しましょう。必要あれば変更・追加し、それをまたみんなで確認し合ってください。以前から在籍するスタッフやメンバーも毎年必ず1回は確認し、新たに入ってくる選手、保護者、スタッフと確認しましょう。

● 構成

▶ クラブで大切にすること

▶ 期待される行動

▶ 互いの約束であること

▶ 約束が守れなかった場合には

▶ 日付/署名

● 常に目に触れるところに

クラブハウスに掲示、あるいは各自が持つ配布物などに入れるなど、いつでもクラブのメンバーに目に入るようにしましょう。互いの約束が、いつも見れるようすることが大切です。次ページに掲載している行動規範（約束）はあくまでも見本です。自分たちで考えて決めてください。考えて決めること自体が大切な作業です。

6 クラブウェルフェアオフィサーの皆さんにお願いしたいこと

2. クラブのフィロソフィー・行動規範の設定

リスペクトの約束（例）

選手（U-12）

サッカーは本来誰もが楽しむことができる、すばらしいものです。それを守ることは、大切なこともふくめた、関わる全員の仕事です。

私達はみんな、サッカーの中で、リスペクトのある行動をとることが求められています。

私達のクラブでは、すべてのプレーヤーに「リスペクトの約束」を守ることを求めています。

サッカーをするときには、以下のように行動します：

- ・常に自分の力を最大限に発揮することを目指す。
- ・フェアなプレー：不正をしない、異議を言わない、時間かせぎをしない
- ・チームメイト、相手チーム、レフェリー、監督・コーチ、スタッフをリスペクトする
- ・ルールにしたがってプレーし、レフェリーと協力して良いゲームをする
- ・試合終了時に、お互いに感謝し、相手チームやレフェリーと握手する
- ・コーチ・チームマネージャーの言うことに耳を傾け、それに反応する
- ・自分の思いを伝える
- ・クラブで何か気になること、不満や不安があるときは、信頼できる人やクラブのウェルフェアオフィサーに相談する。

これは関わる者同士、お互いの約束です。クラブに入る時、毎年のシーズンが始まる時に、互いに確認し、約束のしるしに名前を書きます。

この約束をやぶることがあったら、重要度に応じてクラブで決めた以下の対応があることを理解します。

- ・注意
 - ・話し合い
 - ・メンバー、仲間への説明
 - ・クラブが保護者と話し合う。
 - ・トレーニングや試合への参加を一定期間休止
 - ・研修やボランティアへの参加
 - ・都道府県FAや連盟のウェルフェアオフィサーに報告。面談等
 - ・クラブを退会
 - ・その他
- 加えて
- ・リーグ/連盟、都道府県FA、またはJFAに報告する場合があります。
 - ・リーグ/連盟、都道府県FA、JFAから、何らかの措置がある場合があります。

日付 年 月 日

名前

リスペクト行動規範（例）

選手

私たちは皆、サッカーにおいて、高い水準の行動を促進する責任を負っています。

試合に関わる全ての人が協力して試合を成り立たせていく必要があります。自分の役割を果たし、選手のリスペクト行動規範を常に遵守しましょう。

ピッチ内でも外でも以下のように行動します：

- ・常に自分の力を最大限に発揮することを目指す。
- ・競技規則を正しく理解し、守る
- ・高いスタンダードの行動を示し、それを促進する
- ・フェアプレーをする
- ・レフェリーの判定を常にリスペクトする
- ・レフェリーに対する公然の批判を行わない
- ・攻撃的、侮辱的な言動はしない
- ・いじめ、脅迫、嫌がらせをしない。
- ・チームメイト、対戦相手、監督・コーチ、スタッフにリスペクトをもって接する。
- ・我々は皆ミスをするということを忘れない
- ・勝っても負けても、毎試合終了時には、相手チームやレフェリーと握手する。
- ・自分の思いを伝える
- ・クラブで何か気になること、不満や不安があるときは、信頼できる人やクラブのウェルフェアオフィサーに早めに相談する。

これは関わる者同士の約束です。入部時、毎年のシーズンが開始時に、互いに確認し、約束の証に署名します。

この約束に反することがあったら、クラブで決めた以下の対応をとられる場合があることを理解します。

- ・チームメイト、相手チーム、レフェリー、チームマネージャーに対して、説明、謝罪する
 - ・注意、警告
 - ・書面による警告
 - ・研修の受講、ボランティア活動への参加
 - ・一定期間のトレーニングや試合への参加停止
 - ・都道府県FAや連盟のウェルフェアオフィサーに報告。面談等
 - ・クラブを退会
 - ・その他
- 加えて
- ・リーグ/連盟、都道府県FA、またはJFAに報告する場合があります。
 - ・リーグ/連盟、都道府県FA、JFAから、何らかの措置がある場合があります。

日付 年 月 日

名前

リスペクト行動規範（例）

指導者、スタッフ

私たちは皆、サッカーにおいて、高いスタンダードの行動を促進する責任を負っています。

サッカーは本来素晴らしいものですが、常にそれが守られているかという点、そうでないことも多くあります。選手への暴力・暴言、レフェリーへの暴言や、勝利をあまりに求める保護者や観客、指導者による暴言などがあります。

我々皆が自分の役割を果たし、クラブが定めた「リスペクトの約束」を遵守しましょう。

オンザピッチでもオフザピッチでも、私は以下を守ります。

- ・選手をリスペクトし、その成長を大切にします。勝利も含めた何よりも、選手一人ひとりの安心、安全、楽しみを優先する。
- ・選手の声を聞く
- ・指導者・スタッフが選手に期待すること、選手が指導者・スタッフに期待できることを正確に説明する。
- ・自らが見本となるよう振る舞う。フェアプレーと高いスタンダードの行動を促進する
- ・審判、対戦相手、指導者、スタッフ、観客など、ゲームに関わるすべての人達をリスペクトする
- ・競技規則とその精神を理解し遵守する
- ・レフェリーの判定を常に尊重する
- ・レフェリーに対し公然の批判をしない
- ・攻撃的、侮辱的な暴言、暴力を行わない。またそれを容認しない。

- ・18歳未満のすべての選手の保護者が、これら期待される行動を理解するよう協力を得る。
- ・いじめに担当しない、傍観しない、許さない
- ・選手一人ひとりと、互いの信頼とリスペクトの心を培い、自尊心を育てる
- ・各選手の自立を促し、自分の行動とパフォーマンスに責任を持たせる。
- ・クラブが企画するすべての活動が、選手のレベル、年齢、成熟度に達していることを確認する。
- ・各選手がサッカーを通じて成長するために、サッカーに関わる様々な分野の人と協力する。

これは関わる者同士の約束です。入部時、毎年のシーズンが開始時に、互いに確認し、約束の証に署名します。この規範に従わず、約束に反することがあったら、クラブで決めた以下の対応をとられる場合があることを理解します。：

- ・注意
- ・クラブ、リーグ/連盟、または都道府県FAのウェルフェアオフィサーとの面談
- ・クラブ役員との面談
- ・クラブの他のコーチからモニタリング
- ・研修の受講
- ・ボランティア活動参加
- ・クラブからトレーニングや試合への参加停止
- ・クラブから解雇要求

加えて

- ・都道府県FA、JFAの認定委員会等に報告、何らかの措置が課される場合があります。

日付 年 月 日

名前

リスペクト行動規範（例）

保護者

私たちは皆、ゲームにおける高いスタンダードの行動を促進する責任を負っています。このクラブは、サッカーが安全でポジティブな環境で楽しめるように、JFAの「リスペクト」プログラムをサポートしています。

子どもたちのサッカーは、技術的、身体的、戦術的、社会的スキルを伸ばすための時間であることを忘れないでください。勝つことがすべてではありません。

自分の役割を果たし、JFAの「めざせベストサポーター」とこの行動規範を常に遵守してください。

私は以下のように行動します：

- ・子どもたちは「楽しみ」のためにプレーするのだということを忘れないでください。
- ・成功だけでなく、努力や良いプレーにも拍手を贈ります
- ・レフェリーの判定を常に尊重します
- ・ピッチの外、および指定された観戦エリア（提供されている場合）から応援します
- ・指導は指導者に任せ、選手に指示を出して混乱させません
- ・選手には、相手選手、レフェリー、運営役員を尊重するように促します
- ・ミスをした選手を批判しません。ミスは学びの一部です
- ・攻撃的、侮辱的な言動をしません。またそれを容認しません

私は、この規範に従わない場合、所属クラブ、都道府県FA、リーグ/連盟、またはJFAから、以下のいずれか、あるいはすべての措置が取られる可能性があることを理解します：

- ・クラブまたはリーグ/連盟の役員から口頭で警告を受ける
- ・クラブ、リーグ/連盟、都道府県FAのウェルフェアオフィサーとの面談
- ・研修受講
- ・クラブの要請で試合会場からの退去
- ・クラブの要請で試合への参加の停止
- ・クラブ会員資格の停止または剥奪
- ・子どもを含めてクラブを離れること

日付 年 月 日

名前

6 クラブウェルフェアオフィサーの 皆さんにお願いしたいこと

3. セルフチェックリスト

このチェックリストは評価するためのものではなく、あくまでもセルフチェックリストです。ぜひ定期的に、毎年シーズン開始時にしてみてください。そして、自クラブのあり方をあらためて考える機会としていただければと思います。満点をとることが目的ではなく、自分たちのクラブではこれは行わない、というものもあるかもしれません。リストに挙がっている意味を考えた上で、ご判断いただければと思います。

一人ではなく、クラブの代表者や選手など、関わる人たちと一緒にチェックすることをお勧めします。分野によっては、自分たちのクラブが弱いところもあるかもし

れません。リストに挙がっているよりも、もっと高いスタンダードですすでに対応しているところもあるかもしれません。今後に向けて改善を検討する場合の材料としてください。

繰り返しますが、満点をとることが目的ではありません。自分たちのクラブの体制に応じて、方針などを確認する機会としてください。提示したチェックリストは、育成年代のタウンクラブを想定しています。リーグや連盟、年代やレベルに応じてカスタマイズすることを、WOG チーフにはお願いしています。

育成年代クラブセルフチェックリスト（例）

実施日 年 月 日

【クラブ名】

【チェックした人】氏名

【クラブとの関係】

このチェックリストは、育成年代のクラブが、
参加する選手、指導者はもとより、関係するすべての人に対して、
より安全に、安心して活動できるクラブ環境を整える運営を目指しているかどうかをチェックするものです。

A：クラブのフィロソフィー・活動理念・活動目標の設定

- 01 クラブとしての規約、活動方針・運営方針を明文化して示している。
- 02 クラブの目標・活動方針を、入部する際に選手および、指導者、運営スタッフに確認し、互いに了解している。
- 03 クラブの目標・活動方針を確認する会を、毎年選手に対して行っている。
- 04 クラブの目標・活動方針を確認する会を、毎年保護者に対して行っている。
- 05 クラブの目標・活動方針を確認する会を、毎年指導者、運営スタッフに対して行っている。

6 クラブウェルフェアオフィサーの 皆さんにお願いしたいこと

B：クラブの指導者に関して

- 06 指導者1人に対する選手の数が多くなりすぎないようにし、しっかり目が届くようにしている
(1人に20人目安。それ以上の場合は複数スタッフでカバー)。
- 07 JFAの公認指導者資格保持者がいる。
- 08 C級以上の指導者資格保持者がいる。
- 09 B級以上の指導者資格保持者がいる。/ スタッフ全員にできるだけ指導者資格保持を促している。
- 10 指導者に、指導者資格取得を促すとともに、取得できるよう配慮している。
- 11 女性指導スタッフがいる(特に女子選手がいる場合)。
- 12 複数チームへ対応できるよう指導者を確保している。
- 13 資格の有無にかかわらず、指導者が研修会に参加できるよう配慮している。
- 14 クラブ内の指導者同士で、研修会・勉強会を行っている。

C：審判に関して

- 15 クラブに審判資格取得者がいる(複数チームで活動している場合にも帯同の対応可能)。
- 16 選手にルールの特訓会(研修会・ミーティング)を開いている。
- 17 ユース審判を積極的に受け入れている。
- 18 選手・指導者・スタッフに、審判資格取得を促すとともに、取得できるよう配慮している。

D：暴力根絶、安心・安全対策、リスペクトに関して

- 19 指導者・スタッフが全員、またクラブとして、暴力根絶宣言をしている。
- 20 クラブウェルフェアオフィサーを配置し、クラブ内での相談窓口をおいたり、
クラブ内での安心安全対策・対応について確認したりしている。
- 21 クラブ役員・スタッフ、指導者に対して、暴力根絶・リスペクトの研修を行っている。
- 22 選手に対して、暴力根絶・リスペクトの研修や活動を行っている。
- 23 選手の安全を守るための具体的な方策が決められている(自然災害、事故、雷への対応基準を作成している。
緊急連絡網、連絡手順の設定等の危機対応マニュアルを作成している)。
- 24 遠征等の移動について、事故等を想定した緊急時のマニュアルを作成している。
- 25 チームとして活動する場合の事故や災害に備えて保険に加入している。

E：メディカル・応急処置体制について

- 26 クラブ員の健康リスク(アレルギー、障がいなど)について把握し、安全に活動にできるよう配慮している。
- 27 指導者、チームスタッフは、応急処置の知識をもち、応急処置ができる。
- 28 通常の練習場所において、緊急時に対応してくれる医療関係機関を確認している。
- 29 遠征時を含め、最寄りのAED設置場所を、スタッフ、選手とも確認することを習慣化している。
- 30 指導者・役員スタッフはAEDの研修を受けている。
- 31 選手・保護者向けにAEDの研修会を実施している。
- 32 トレーニング、試合の場に、必要な応急処置の用具を備えている。
- 33 メディカル担当者を配置したり、メディカルケアをお願いできる地域の医療機関と連携したりしている。

6 クラブウェルフェアオフィサーの 皆さんにお願いしたいこと

F：保護者への働きかけ連携

- 34 クラブ運営、ゲームの応援や選手への保護者の関わりについて、クラブとして確認する会を開いている。
- 35 JFA発行ガイドブック「めざせ！ベストサポーター」「合言葉はプレーヤーズファースト」またはリーフレットあるいはそれ類する資料を配布して、選手やクラブとの関わりや、保護者の選手への接し方などについて保護者への研修会(保護者との話し合い)を行っている。

G：適正な運営

- 36 チーム運営や活動に関わり、スタッフが行うことと保護者をお願いすることが明確に示されている。
- 37 練習や試合にチームとして移動する場合の責任所在や保護者の協力範囲などについて、年度当初文書で確認している。
- 38 練習や試合などでチームとして移動する場合に、保護者会や一部の保護者任せにしたり、保護者当番など保護者に任せきりしたりすることはない。
- 39 クラブ費徴収額の根拠について開示し、クラブ員に対して、会計報告を行っている。
- 40 泊を伴う行事や遠征など、費用を伴うものについて、経費の試算や予算編成を行い、予算を示した参加計画を事前に作成して実施するとともに、終了後に会計報告を行っている。

H：地域・社会との交流、地域・社会への貢献

- 41 学校や地域での役割、行事を大切にさせている。
- 42 普及の活動(キッズフェスティバルの開催や協力等)を行っている。
- 43 社会貢献、地域貢献事業を行っている。(地域の施設との交流、地域行事への協力など)

I：プレーヤーズファースト

- 44 公式戦を含む試合には、全員に試合への出場機会を保証している。
- 45 練習、試合において、どの選手にとっても良い刺激が与えられるよう配慮している。
- 46 選手、保護者の意志によって移籍を希望した場合、その移籍を妨げない。
- 47 選手に対して、「リスペクト 大切に思うこと」「選手のためのハンドブック」等を使用してワークショップやミーティングをしている。
- 48 定期的に選手とミーティングをし、選手自身の声を聞く機会を設けている。

J：その他

- 49 選手及びその保護者、クラブに関わる個人の情報の保護に努めている(SNS等の利用について適切な指導を行っている)。
- 50 指導者やスタッフは、活動中や活動場所において喫煙・飲酒はしない。
- 51 指導者やスタッフの行動規範を定めている(明文化して、指導者・スタッフで確認している。)



クラブウェルフェアオフィサーの 皆さんにお願いしたいこと

チェックリスト振り返りシート

実施日 年 月 日

【記入者】

チェック項目数
合計 () / **50**

A () / **5** **E** () / **7** **H** () / **3**

B () / **9** **F** () / **2** **I** () / **4**

C () / **4** **G** () / **5** **J** () / **3**

D () / **9**

自己評価 目指している理想のクラブ運営・経営に対して

- () 達成している
- () ほぼ達成している
- () 達成できてない部分がある
- () 達成できていない部分が多い
- () 全く達成できていない

【実施してみた感想・考察 今後に向けて】

7 暴力・暴言等（パワーハラスメント）とは

パワーハラスメントの定義

「スポーツを行う者を暴力等から守るための第三者相談・調査制度の構築に関する実践調査研究協力者会議報告」（2013年12月）では、暴力暴言等（パワーハラスメント）の定義を下記のように定めています。

「同じ組織（競技団体、チーム等）で競技活動をする者に対して、職務上の地位や人間関係などの組織内の優位

性を背景に、指導の適正な範囲を超えて、精神的若しくは身体的な苦痛を与え、又はその競技活動の環境を悪化させる行為・言動をいう」

これを基に、厚生労働省が提示する、下記の3要素を満たすものはパワーハラスメントにあたります。また、その行為は6つの類型に分けられます。

パワーハラスメントの3要素

1 優越的な関係

地位（監督やコーチなど）や年齢、体力の優位性年齢、役職、フィジカルの強さを持って行われる。

2 不適正な活動

サッカーやクラブ活動には必要性がなく、その態様がその活動にふさわしくない、また、クラブの活動目的以外で行われる。

3 苦痛を与える

身体的・精神的に圧力を加えられ、負担と感じさせる。クラブ内での環境が不快なものとなり、活動に悪影響を生じさせる。

6 類型と具体例

①身体的な攻撃（暴力）

- 直接暴力（殴る、蹴る、物を投げつける、蹴りつける）
- 練習の名を借りた暴力（罰走、罰として腕立て伏せ）
- 暑熱下の状況で水を飲ませない
- 丸刈りを命令する
- 根拠のない高負荷な練習を課し、選手を負傷させる

②精神的な攻撃（人格を否定するような言動）

- 身体的特徴、出自、人種について言及する（肌の色、障がい）
- 男女差について言及する（男なのに、女だから）
- 必要以上に大声で、叱責する
- 必要以上に長時間にわたる厳しい叱責を繰り返す
- 他人（チームメイトを含む）の前で、威圧的な叱責を行う
- 監督自らは手を出さず、選手に殴らせる
- 選手の意向を無視して進路を決める
- 授業より練習を優先させる
- 監督の言う通りにしていれば、と言う

③人間関係からの切り離し

- 理由もなく、別メニューの練習を行わせる
- グループミーティング、チーム行事に参加させない
- 試合（練習）日程を知らせない
- 特定の選手に近付かないよう指示する

④過大な要求

- 無理な練習目標を設定し、それができなかったことを叱責する
- 負傷しているにもかかわらず、練習を休ませない、試合出場を強いる
- どんなことをしても（ラフプレーをしても）勝利するよう指示する
- 平等の名の下、身体的能力が下回る選手に過度な練習を強いる

⑤過小な要求

- 理由もなく、別の練習をさせる、練習をさせない
- 戦術を理由（隠れ蓑）に試合に出場させない
- 平等の名の下、個人の潜在能力を引き上げる練習をさせない

⑥個の侵害

- SNSで選手などへの悪口を拡散させる
- 選手に関する嘘（不確かな）情報を流布する
- 承諾なく、選手などの個人情報を暴露する、写真を拡散する
- チーム移籍を認めない
- 選手（保護者）との関係不仲で、その選手の兄弟姉妹の選手に対して不利益な行動をとる

パワーハラスメントチェック表

	チェック項目	評価
1	暴行・傷害・脅迫・名誉毀損等、刑法に抵触する言動をしていませんか	
2	人格否定や体罰等、人間としての尊厳を侵害する言動をしていませんか	
3	地位や立場等、人間関係の優位性が背景にありませんか	
4	指導や教育の適正な範囲を超えていませんか	
5	複数回、または執拗ではありませんか	
6	相手に身体的・精神的苦痛を与えていませんか	
7	周りの選手が萎縮する等、活動環境を悪化させていませんか	

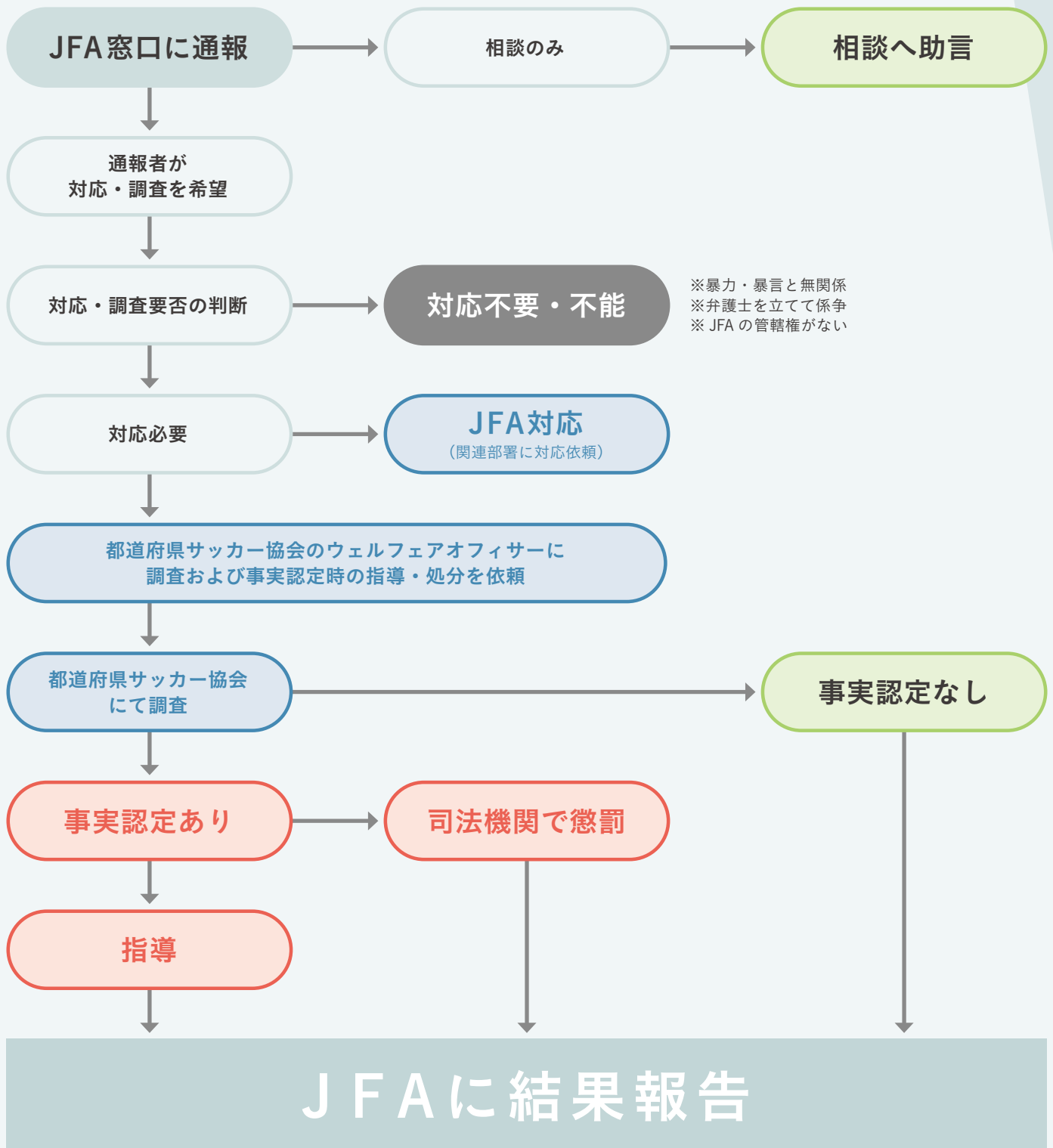
※ PHP 研究所「実践!グッドコーチング〜暴力・パワハラのないスポーツ指導を目指して〜」より引用

7

暴力・暴言等（パワーハラスメント）とは

問題が起こった場合の報告フロー

JFA窓口に相談・解決までの流れ



8 各種ステートメント・宣言

JFA2005年宣言

JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。
サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。
常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAの約束2050

2050年までに、すべての人々と喜びを分かちあうために、ふたつの目標を達成する。

1. サッカーを愛する仲間=サッカーファミリーが1000万人になる。
2. FIFAのワールドカップを日本で開催し、日本代表チームはその大会で優勝チームとなる。

JFAグラスルーツ宣言

Football for All

サッカーを、もっとみんなのものへ

年齢、性別、障がい、人種などに関わりなく、だれもが、いつでも、どこでも。
私たち日本サッカー協会は、サッカー、そしてスポーツの持つすばらしさを
もっともっと、たくさんみなさんと分かち合い、育みたいと考えています。

だれもが、サッカーの楽しさに触れられるように！
サッカーとのすばらしい出会いやきっかけを、たくさんご用意します。

だれもが、サッカーをもっと身近に感じられるように！
自分のニーズや希望に合ったサッカーの選択肢を、次々と増やします。

だれもが、心からサッカーを楽しめるように！
安全に、安心してサッカーを楽しめる環境を、しっかりと整えます。

8

各種ステートメント・宣言

JFAセーフガーディングポリシー 基本原則

本ポリシーの目的

子どもたちがサッカーを安心・安全に楽しみ続けられる環境を生み出す。守り続ける。子どもたちをエンパワーする。そのために、関わるサッカーファミリーのよりどころとなるポリシーを示します。

子どもたちの安心・安全を守る

- 1 ▶ 子どもたちの喜びを広げ、成長を促す環境をつくる
- 2 ▶ 子どもたちに選択肢を与える
- 3 ▶ 子どもたちの声を聞き対話する
- 4 ▶ 子どもたちの安心・安全を守る
- 5 ▶ 健康や環境リスクに対処する

ゼロ・トレランス 私たちは許さない

- 6 ▶ あらゆる暴力・暴言を排除する
- 7 ▶ あらゆる差別を排除する
- 8 ▶ あらゆるハラスメントを排除する
- 9 ▶ あらゆる誹謗中傷を排除する
- 10 ▶ 子ども同士の問題にもアプローチする
- 11 ▶ サッカー外の問題にも気づく
- 12 ▶ 負の連鎖を断ち切る

そのためにも

- 13 ▶ 適切な人が子どもたちに関わるよう取り組む
- 14 ▶ 子どもたちを守るためにも、誠実に子どもたちに向き合う大人の安心・安全も守る
- 15 ▶ 起こったことへの対応とともに、予防・教育を重視する
- 16 ▶ 現場をオープンに。リスクの芽に気づき、声を掛け合う、伝え合う文化をつくる

そしてこれは

- 17 ▶ ファミリー全員の役割・責務であり、全員が当事者意識を持つ必要がある
- 18 ▶ 定期的に現状や手順を評価し、状況の変化に応じてアップデートする必要がある



サッカーファミリー安全保護宣言

1. サッカーにおける暴力・暴言を根絶します

ゼロ・トレランスの実現

暴力・暴言、ハラスメント、差別に関しては一切の妥協も許さない“ゼロ・トレランス”の姿勢でそれらの撲滅に取り組みます。具体的には、「懲罰規程」に暴力・暴言など具体的な事例を挙げてその懲罰を明記するとともに、懲罰を科された指導者に対するライセンスの再審査や、暴力等を起こさないための教育も義務付けます。

また、「競技規則2019/2020」においてチーム役員による違反行為も懲戒の対象となりましたので、ピッチ内での暴力・暴言も見逃すことなく、選手や審判員たちが存分にパフォーマンスを発揮できる環境を整備します。

具体的取り組み

- 「JFA規約・規定集」の見直し(懲罰の厳罰化)
- 都道府県サッカー協会との連携(指導の厳重化)
- 起こさないための予防(啓発活動)ウェルフェアオフィサーの推進、指導者メンター制度の構築
- コンプライアンス研修、セーフガード研修受講の義務化(指導者ライセンス更新講習として)
- 競技規則 2019/2020 の変更→審判員によるチーム役員への「警告・退場」(自チームへの暴言等含む)

2. 子どもたちをハラスメントから守ります

差別や虐待、いじめといった身体的・心理的に苦痛を与えるハラスメント行為はもちろん、大人たちの喫煙で生じた副流煙を吸い込んでしまう受動喫煙、飲酒による迷惑行為やトラブル発生の防止にも力を注ぎます。

具体的取り組み

- 差別、虐待、いじめ、喫煙、飲酒等々

3. 子どもたちの健康を守ります

子どもたちの健康を守るためには医科学的サポートも不可欠です。スポーツドクターやトレーナーの数は増えているものの、グラスルーツサッカーの中で実際にチームに配置されているケースはごくわずかで、けがや事故等に対する知識が不十分なために無理をしてプレーした結果、悪化して選手生命を断たれてしまうといった悲劇も起きています。グラスルーツサッカーにおけるメディカルサポートを充実させるために、スポーツ救命救急講習会の拡大、サッカー活動中に発生しやすいスポーツ外傷やスポーツ障害の指針の周知、また、ドーピングからの保護、健康的な日々を送るための生活指導や食育も積極的に行っていきます。

具体的取り組み

- グラスルーツサッカーにおけるメディカルサポートの充実
- スポーツ救命救急講習の実施拡大
- メディカル関連指針の普及(アレルギー・脳振盪等)
- AED設置の促進
- アンチ・ドーピング活動

10 インフォメーション

リスペクトのさまざまな取り組み

JFA と Jリーグは2008年、サッカー界におけるリスペクトの重要性を認識し、「リスペクトプロジェクト」をスタートしました。

リスペクトの本質は、常に全力を尽くしてプレーすること。それはフェアプレーの原点でもあります。JFA は、リスペクトを「大切に思うこと」として、サッカーに関わるすべての人、ものを大切に思う精神を 広く浸透させていきます。その一環として、サッカーやスポーツの

現場で顕在化する差別や暴力に断固反対し、差別や暴力のない世界をつくるべく、相談窓口を設置するなどのさまざまな取り組みを行っています。



JFA公式Webサイト
「リスペクト・フェアプレー」ページ
<https://www.jfa.jp/respect/>



【RESPECT ～大切に思うこと～】
コンセプト映像
<https://www.youtube.com/watch?v=6xHxgaWhSk8>

JFAの宣言・指針



リスペクト宣言
<https://www.jfa.jp/respect/declaration/>



JFA
サッカーファミリー安全保護宣言
https://www.jfa.jp/respect/safety_protection/contents.html



JFA
セーフガーディングポリシー
https://www.jfa.jp/respect/safe_guarding.html



※ハンドブックやチラシ・ポスターなどを無料で公開しています。
ぜひダウンロードしてご活用ください。
<https://www.jfa.jp/respect/download.html>

知る

- スポーツにおける暴力・暴言・ハラスメント・差別とは？
- なぜ暴力・暴言・ハラスメントを用いてしまうのか？
- なぜ暴力・暴言・ハラスメントはダメなのか？
- 指導者の役割と子どもの指導
- 保護者の役割
- JFAnews連載『いつも心にリスペクト』
- JFAテクニカルニュース連載『サッカーの活動における暴力根絶に向けて』
- スポーツ界の取り組み

参加する・学ぶ

- JFAリスペクトフェアプレーデイズ
- ウェルフェアオフィサー
- セーフガーディング eラーニング (クラブ・ウェルフェアオフィサー向け)
- セーフガーディングワークショップ
- 指導者養成講習会
- リスペクトフェアプレーツールダウンロード

相談する

- 暴力等根絶相談窓口
https://www.jfa.jp/violence_eradication/



懲罰・裁定

- 暴力等根絶相談窓口

